

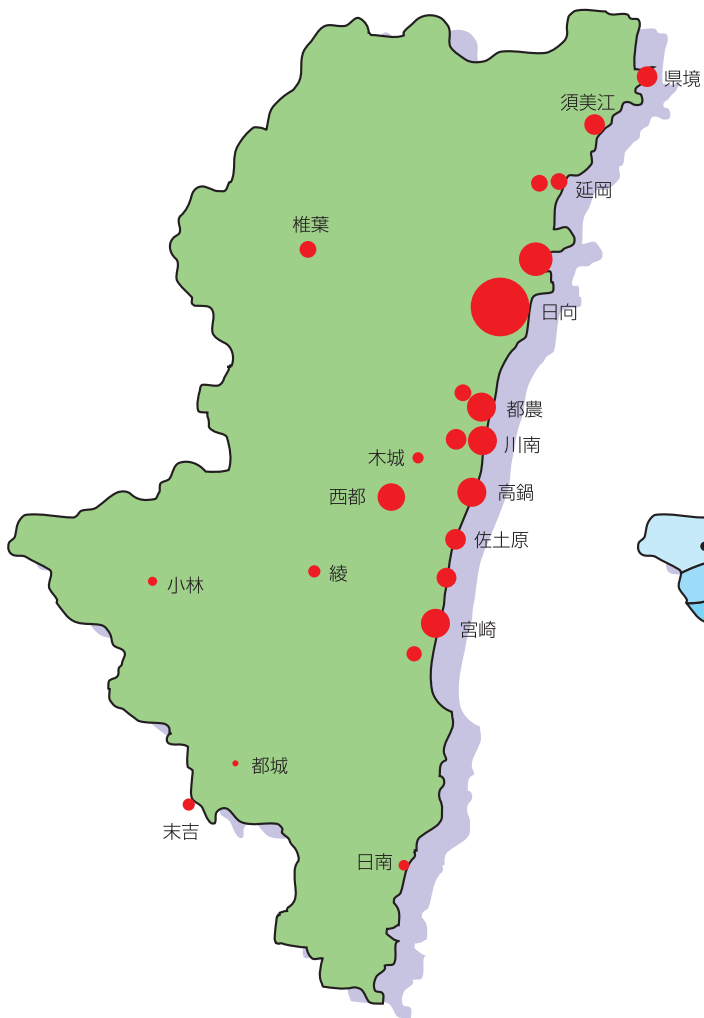
《チェルノブイリ原発事故の放射能汚染》

宮崎県放射能量 ($^{137}\text{Cs} + ^{134}\text{Cs}$)

検体=松葉 ('85年新芽分採取)

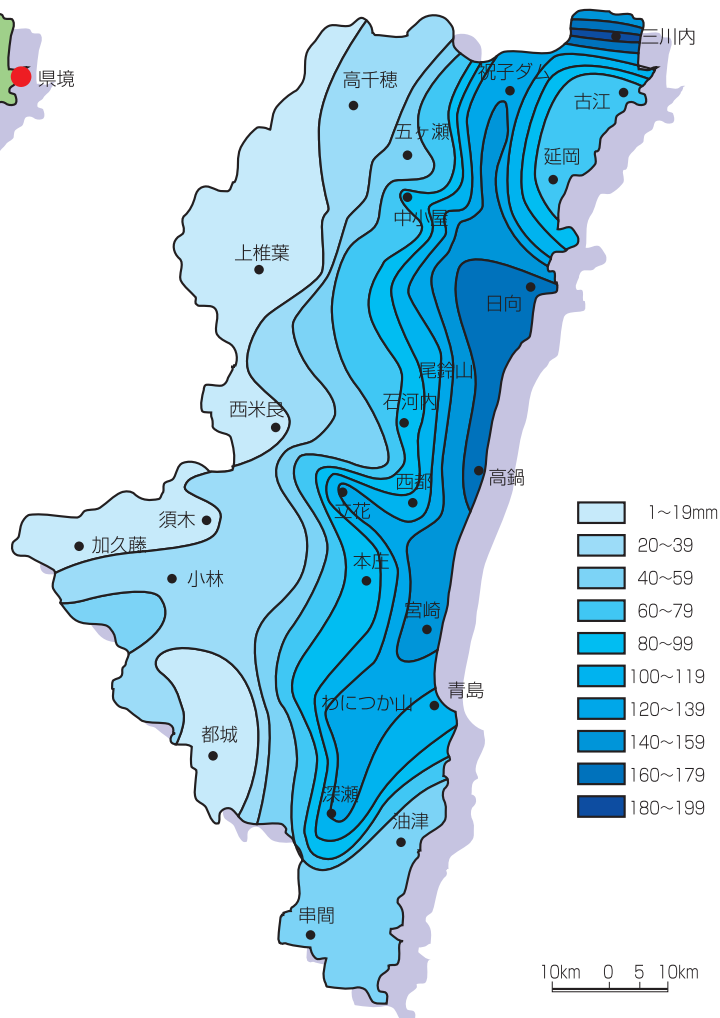
1987年8月6日~1987年10月1日に採取

最高=8100pci/kg・dry (日向) 最低=38.47pci/kg・dry (都城)



宮崎県降雨量 (1986年5月4日~6日)

宮崎県気象月報より作成
(1997年4月再作成)



1986年4月26日、旧ソ連チェルノブイリ原発で核暴走事故が起きた。それから約1週間後、約8,000kmも離れた日本でも各地で放射能が検出され始めた。宮崎県でもゴールデンウィークに空間線量の上昇がみられたが、特に注意が促されることはなかった。その年発表された政府の汚染地図では、宮崎県は空白であった。一方、放射能の危険性を訴えていた科学者が公表した汚染地図では、セシウムの値が日本で最も高かった。

事故から1年半たって、市民グループの「原発いらん実行委員会」が科学者の協力を得て、松葉を検体にして宮崎県内の詳細測定を行った。その結果、全ての地点で放射能が検出され、雨量に比例していることがわかった。「原発いらん実行委員会」は、当初、各地のサツマイモから放射能を検出していたが、「発表すれば、全てのものが汚染されているにも関わらず、“サツマイモから放射能検出”として、サツマイモ農家が壊滅的打撃を受けかねない」と判断し、松葉を検体に再測定して公表し、危険性を訴えた。

(尚、最高値を示した日向地点は「食物の輸入禁止値」に近かったため、2番目に高かった都農地点と共にダブルチェックされた。)

汚染地図提供：原発いらん実行委員会

(面積比) ● = 1000pci/kg・dry ● = 10000pci/kg・dry (日本で輸入禁止とされた値)